

インターバンクの声（2016年6月16日）

14、15日の2日間に渡って開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)は、予想通り金融政策の現状維持を決め、追加利上げを見送った。この決定について、会合終了後の記者会見でイエレン議長がどのような発言をするのか注目されたが、今回の決定には欧州連合(EU)からの離脱の是非を問う来週の英国民投票が要素の一つだったようだ。やはり英国民投票でEU離脱が決れば米経済見通しに影響を及ぼす可能性があると話しており、それだけでなく今年と来年の成長率の見通しが引き下げられているとあっては、今後の利上げに消極的になるのもやむを得ないところだろう。また、5月の雇用統計で就業者数の伸びが想定外と言えるほど落ち込んだことも影響したようだ。昨年12月に利上げに踏み切った当時の、「年4回」の利上げの想定が「年2回」となり、いよいよ「年1回」も怪しくなりつつある。その「年1回」の可能性を維持するためにも23日の英国民投票の行方が大きな鍵になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。